



家族連れなどがたき火を楽しんだ＝常陸太田市里川町

たき火囲みカフェ満喫

常陸太田市里川町のリリーアカデミーキャンプセンター（県立里美野外活動センター）で21日、たき火を囲んでコーヒーなどを楽しむ「さとみ焚火カフェ」が行われた。温かみのある炎を前に家族連れなどがカフェタイムを楽しんでいた。市外の4組11人の親子が参加。キャンプインストラクターの資格を持つ同センタースタッフが、なたとまき割り台を使ったまき割りなどを分かりやすく指導。

常陸太田 まき割り、火おこし体験

新緑に囲まれたたき火台の炎を感じながら、コーヒーやお茶を味わった。水戸市から家族3人で参加した小学4年の寺本蓮君は「火をおこしたり、まきを割ったりするのが楽しかった。火を付ける時は緊張した。また来たい」と満足そう。母親の雅美さんは「子どもたちの要望で来た。まき割りや火おこしなど貴重で楽しい体験になったので」と話した。

（飯田勉）

③茨城新聞掲載 キャンパーに愛され50年 建築家ギャラリー解放 6月11日(土)
『リリーアカデミーキャンプセンターゆかりの世界的建築家 アントニン・レーモンドを紹介』

キャンパーに愛され50年

常陸太田 建築家のギャラリー開放

常陸太田市里川町のアウトドア体験施設「リリーアカデミーキャンプセンター（県立里美野外活動センター）」は今年、設立50周年を迎える。チエコ出身の建築家で、日本近代建築の父と呼ばれるアントニン・レーモンド氏（1888～1976年）ゆかりの施設で、長く多くのキャンパーから愛されている。50周年記念として5月下旬から本館内のレーモンドギャラリーの開放を始めた。



大きな赤い三角屋根が特徴の本館＝常陸太田市里川町

レーモンド氏は、米国の一日。戦前戦後を合わせて44年間に日本を過ごし、小林・ライトの助手として旧帝聖心女子学院（兵庫県）や東京女子大学礼拝堂（東京）や国ホテル建設のために来

都、富士カントリークラブ（静岡県）など数多くの設計を手がけた。同センターはレーモンド設計事務所が担当し、1972年に竣工。標高700

メートルを超す山々に囲まれ、広さ約28畝の敷地は東京ドーム約6個分もある巨大キャンプ場。大きな赤い三角屋根が連なる本館や自然の地形を生かしたキャンプ場で、当時の姿を大切に維持しながら運営されている。

レーモンドギャラリーは大型暖炉のある部屋に設置され、同氏の経歴や顔写真、本館のバース、竣工時の建物など貴重な大型写真などを展示している。

本館は宿泊室のほか講義室や多目的室、救護室など



本館内のレーモンドギャラリーを紹介する県キャンブ協会の園部高生会長＝常陸太田市里川町

イレなどを備え、炊飯用具や毛布などを貸し出す。

スタッフ全員がキャンブインストラクターの有資格者で、テント設置やロープワーク、火おこし、まき割りなど非日常体験を満喫させてくれる。

指定管理者の県キャンブ協会の園部高生会長は「レーモンド氏が設計に関わった県内でも屈指の施設。多くの県民にこのキャンプ

施設を知ってもらい、市内の手つかずの自然を楽しんでほしい」と来場を呼びかける。

（飯田勉）